

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2794000345		
法人名	社会福祉法人ウエル清光会		
事業所名	グループホーム輝豊苑		
所在地	大阪府豊中市上野東2-4-47		
自己評価作成日	平成 27年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成 27年 10月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosoCd=2794000345-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 27年 9月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中でその人らしい生活ができるよう、地域のイベントや集会には積極的に参加し、地域連携をしています。勉強会や研修をととして職員のスキルアップに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「全従業員の物心両面の幸福と、福祉を通じて三方笑顔を想像し、社会の成長発展に貢献する」を法人理念としています。「その人らしい生活が続けられるように個性を生かしいつまでも生き生き輝けるホームを目指します」を目的に開設して3年目の2階建て2ユニットのグループホームです。閑静な住宅街にあるホームは、1階にデイサービスセンターを併設しています。定期的な家族会を開催し、そこから出た意見をもとに、家族の協力を得ながら、利用者一人ひとりの希望を叶えています。また、職員への教育にも力を注ぎ、さまざまなアドバイスを出しながら、職員間の交流も深めています。職員は、パーソンセンタードケアの考えを基本とし、利用者一人ひとりの個別ケアを大切に、「利用者の笑顔が集う場所にする」ことを目標にカンファレンスの充実を図っています。10月からはさらに、ユニットリーダー育成に取り組んでいます。職員は、互いに意見を表出しやすいよう、コミュニケーションの良い雰囲気づくりに努めています。法人管理者・運営責任者は、利用者のみならず職員へのメンタルな面にも配慮するなど、今後に期待できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげて要る	理念は毎日の朝礼時に全員で唱和し、共有している。	管理者や職員は、理念を事業所の運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。スタッフルーム内に理念を掲示し、毎朝の職員ミーティングで唱和する等、職員間で共有しています。「笑顔があふれるあたたかい空間作りを心掛けます。思いやりのある、心に寄り添ったケアを提供させていただきます。一人ひとりにあった身体介助と生活のお手伝いをさせていただきます」を目指すグループホームとして、サービスの実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の会合などにも積極的に参加し、交流を図っている。 利用者様と地域の祭りやイベントに参加する機会を作っている。	利用者・職員は、日々の散歩等を通して地域の方と挨拶を交わしています。また、老人会や敬老会の行事に参加する等して、地域住民との交流を図っています。また、ホームが開催する秋祭りについて、近隣住民へお知らせする等、積極的に地域との関わりを図っています。運営責任者は、他事業所からの依頼で認知症サポーター研修時の講師を実施する等、地域の相談業務にも貢献しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修を今後施設でも開催したい。 職員は定期的に認知症についての勉強会を開催しており、地域の方からの相談の窓口でありたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催している運営推進会議では活動報告を行い、今後の予定については参加者の意見を取り入れ、改善につなげている。	運営推進会議は2か月に1回、年6回開催しています。メンバー構成は、利用者家族、民生委員、老人会代表、介護相談員、地域包括支援センター職員、市社会福祉協議会職員、市担当者としています。運営推進会議に市担当者が毎回出席しており、常に相談や助言を得ています。委員より、秋祭りについてのアドバイスで、地域への声かけやボランティアの受け入れ、出店等が決まりました。会議内容は、家族会の内容や事故、ホームでの活動等の報告を行い、今後の予定や職員教育等について話し合い、検討を行っています。会議録は、2階エレベーター前のユニット入口に設置し、情報の公表に努めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際には各関係者へ活動報告を行い、今後の計画についての意見交換を行っている。	市職員とは、都度連絡を取っています。ホームでは、詳細にわたって事故報告書、ヒヤリハットを作成しています。医療機関を利用するような大きな事故が起きた場合は、市へ速やかに報告しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内だけでなく、法人内の研修でも身体拘束について全職員が学んでおり、実践している。	身体拘束排除のマニュアルを作成し、法人全体で全職員参加の上、研修を行い、身体拘束はしないケアに取り組んでいます。グループホームのユニットに通じるエレベーター、ユニットの玄関は常に開錠されており、利用者は自由に移動ができます。しかしながら、総合玄関の入口のみ施錠しています。利用者が外出を望む素振りを感じた時には、職員はいつでも一緒に出掛けています。管理者は鍵をかけない暮らしの大切さを認識しています。総合玄関の開錠に向けて家族と共に検討を重ねていますが、デイサービスと共同玄関となっているため、安全上開錠には至っていない状況です。今後も家族と話し合いを重ねながら、開錠に向けて都度検討する予定です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同じく、虐待について学び、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会では成年後見制度について学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には十分に時間を取り説明を行い、質問にも答えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他に家族会を開催し、施設の報告や懇親の場として活用している。	運営推進会議に、家族も出席し、意見や要望を伝えています。家族会を2カ月に1回開催しています。毎回多くの家族が参加し、食事を摂りながら家族間の親睦を図り、ホームとの活発な意見交換や要望を出せる場となっています。家族から出た意見や要望はホーム運営に反映しています。家族会や面会に来る機会の少ない家族には、職員から利用者の日常の様子と写真を添えて手紙で報告しています。家族の面会時には、職員は必ずお茶を出して言葉かけをしています。家族との関係は非常に良好で、意見箱は置かずとも、直接職員に意見を伝える関係となっています。最近では、家族からの要望により、「認知症について」の学習会を開催しました。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスでは意見交換を行い、また、職員面談の際に個別の意見を聞いている。	管理者は、日常的に職員と言葉を交わす機会を多く作り、何でも話しやすい環境づくりに配慮しています。毎月1回全体会議を開催し、職員全体で意見や提案、要望等を話し合い、ホーム運営に活かしています。管理者は2～3ヵ月に1回職員面談を行い、職員が意見を出しやすい機会を設けています。理事長は、職員と直接もしくは、テレビ電話で面談を行い、意見や要望を伝える機会も年1回職員の誕生日に設けています。管理者は、職員を育てる取り組みとして、近隣のグループホームとの交流をはじめ勉強会を開催しています。その結果、職員は仕事への意欲が向上する等、好評を得ています。管理者は、これからも職員研修に力を注ぎ、他事業所との交流を多く持ち、近隣のみならず、県外へも学習の機会を増やせるように努力する予定です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎週、代表者は会議にて管理者やリーダーの意見を聞く機会を持っており、職員の誕生日会では個々の意見を聞くなどし、ケアの質の維持、向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の意見を取り入れながら必要に応じて研修や他施設の見学を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学や、他施設との合同勉強会を通じて交流する機会がある。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際には本人の要望を伺う時間を設け、ケアプランに反映させている。本人の意思をくみ取れない場合には家族から生活歴等を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際には家族の要望を伺う時間を設け、ケアプランに反映させている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談の際に家族、本人から十分にアセスメントを取り、適切に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にはパーソンセンタードケアについての研修の時間を設け、利用者との関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との交流も十分に持ち、家族との信頼関係の形成にも努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の下、なじみの美容院や友人との交流などこれまでの生活が続けられるように支援している。	利用者の中には、入居前から馴染みの美容院へ、家族の協力を得て利用しています。職員は、利用者との日常会話の中で知り得た馴染みの関係や、場所等について様々な支援に努めています。最近では、利用者が若い頃から魚釣りによく出かけた場所へ家族の協力を得て、実現に向けた計画をたてて実践し、喜ばれた事例があります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員はグループホームの理念について学び、認知症の方が安心して生活できる環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際にはフォローを行い、必要に応じた支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、または家族の意向が反映できるように3ヶ月に一度のケアプラン更新の際には意向を聞き取っている。日々の生活の中で知り得た情報の共有にも努めている。	職員は、日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。利用者との何気ない会話の中で聞き取った内容は「総合ファイル」に利用者の言葉で残し「個別ファイル」に入れた後、職員間で共有しています。言葉での意思、表現が困難な利用者は表情、仕草で職員は読み取り、家族からの協力も得て、聞き取っています。利用者の要望や情報は可能な限り、家族と相談しながら個別支援に繋げています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には生活歴を伺う時間を持ち、入居後も本人、家族とのコミュニケーションを通して理解を深めながら日々の生活に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングや申し送りを通して現状の把握と情報の共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングとケアプラン更新ごとのカンファレンスを通して本人や家族の意向や目標の共有を行い、話し合いを通してケアの改善に努めている。	計画作成担当者は、介護計画を原則3ヵ月毎に見直しています。利用者に変化があれば、その都度見直しを行っています。モニタリング、カンファレンスは毎月実施しています。サービス担当者会議は3ヵ月毎に実施しており、その際には主治医に確認を取るカンファレンスを行い、ファックスや電話での確認を行っています。サービス担当者会議には、薬剤師、訪問看護師、リハビリ担当者、職員、家族等が参加し、介護計画の見直しに繋がっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報は個別に記録し、共有している。必要に応じてカンファレンスにて話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの要望にできる限り対応できるようにネットワークを広げるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望に応じて買い物へ行ったり、地域のイベントへも参加して頂き、利用者にとってなじみの生活になるよう、支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択、主治医以外の病院の受診などは本人と家族の意向に従う。 必要に応じて医療機関への情報の提供や手配を行っている。	利用者や家族の意向に沿った医療機関で、適切な医療が受けられように支援しています。希望者には、協力医療機関の内科医師や歯科医師の往診を受けることができます。協力医療機関の医師とは、24時間対応の体制となっています。入居前からのかかりつけの医療機関を利用する場合は、薬の指示を受け取り、夜間緊急時は家族より主治医に連絡を取ることを優先する等、家族と話し合っています。訪問看護師による24時間の体制も整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護の看護師から指示を仰ぎ、必要に応じて主治医と連携している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族の意向を聴きながら入院先の病院と連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時についての確認書を取り、職員間でも共有している。 重度化した場合は主治医も交えて再度話し合いを持ち、本人の意向に沿ったケアができるように支援している。	重度化対応・終末ケア対応指針を作成しています。入居時には、医療について「どのような対応を望まれるか」等、意向を聴き取り、確認書で同意を得ています。利用者の重度化やターミナルへと状況が移行した際は、再度同意書で確認を取るなどして支援しています。ホームでは、重度化が進み、昨年より数名の利用者がターミナルとなり、実践しています。職員は、ターミナル研修やミニカンファレンスを密に行い、利用者の食べたい物、したいことが叶えられよう支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて各症状における急変の状況と対応を学び、緊急時のマニュアルを作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を行っている。消防訓練には地域の方への参加も促し、緊急時には地域の協力も仰げるように関係づくりを行っている。	非常災害対策として、消防計画、風水害や地震等に対処する計画を作成しています。1階のデイサービスとの総合訓練・消火訓練を年2回実施しています。今年度は5月に実施し、後1回は秋に実施する予定となっています。ホームでは、一部食料品等の備蓄を準備していますが、水の確保等はできていない状況です。	運営責任者は、非常用食料、水やコンロ、カルテ類等を保管するための倉庫を、玄関横駐車場に設置するよう計画しています。早期の設置とその際には保管物品のリスト化や担当者を決めて、定期的に保管状況を確認することが期待されます。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はパーソンセンタードケアについての研修を通じて実践に努めている。	職員はパーソンセンタードケア(一人の人として尊重したケア)の考え方を基本に、接遇・コミュニケーション等の研修を実施しています。研修を通して職員の気づきを促し、一人ひとりに寄り添った丁寧な言葉遣いができるよう研修を行い、実践に努めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	認知症の方との関わりについて学び、自己決定できるような関わりや環境整備を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの好きなこと、楽しめることを見つけ、スケジュールを組まずに自然に楽しめるような環境づくりを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまで通りの生活を続けていただけるように、家族へもご本人の好まれる衣類を持ってきていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンに立てる方、座って配膳できる方など一人一人ができることを考え、参加していただけるように声掛けをしている。 好きなものを食べられるように買い物へ行ったり、家族が持参したものも提供している。	3食ともホームで食事作りをしています。メニューは利用者の希望を取り入れて職員が作成しています。食材は業者に届けてもらい、週1回程度は、利用者と職員が買い出しに出かけています。利用者は片づけ、トレイ拭き等できることをしています。リビング中央にあるキッチンカウンターからは、職員の作る料理の音や匂いが漂い、利用者は「今日は何かね」「毎日美味しいものばかりでうれしい」と話しながら、職員と会話し、食事を摂っています。家族会開催日には、会議後に駐車場にてバーベキューパーティを開催しています。利用者は、家族と共に職員手作りの握り寿司や季節の果物等も楽しんでいます。職員は、毎回利用者や家族の楽しい集いになるような企画をしています。毎日のおやつ作りも利用者から希望を聞き取り、プリンやたこ焼き等を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事や水分の摂取量を把握し、必要に応じて形態を工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の助言をもらいながら一人一人のペースに合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、ケアを行っている。 過剰なおむつの使用をしないよう、カンファレンスで話し合い、適切なケアにつなげている。	生活リズム・パターン表(24時間シート)を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さり気ない声かけで誘導し、トイレでの排泄を基本にしています。入居時にリハビリパンツを着用していた利用者が、布パンツを使用し、自立に向けた支援に繋がった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取やマッサージ、運動等で排泄を促し、家族の協力を得ながらヨーグルトなど本人に合った便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望に合わせた入浴支援ができるように努めている。	入浴は、少なくとも週2回以上となっており、利用者は週に2～3回入浴しています。入浴を希望されない利用者には、時間や日にちを変更する等して、さり気ない支援をしています。重度の利用者には、職員が2名体制で支援しています。ターミナルの利用者には、毎日丁寧な清拭をする等、清潔保持に努めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	生活ペースに合わせたリズムが 維持できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	医療との連携を図り、薬剤師の 指導を受けながら安全に内服で きるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	趣味や特技を楽しめるような環 境づくりに努め、毎日の生活に やりがいを感じていただけるよ うに家事などを一緒にやっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物などの希望にはできるだけ添えるように、時間を設けている。家族の協力を得ながら外出、外食の機会を作っている。	季節の良い日には散歩に出かけたり、職員と近隣のドラッグストアや菓子・ケーキ屋等へ買い物に出かけたりしています。大きな行事としては、年間の外出企画を立てています。初詣、花見、バラ園、地域の夏祭り、紅葉狩り等を計画し、家族の協力を得ながら支援しています。また、外食で寿司屋、たこ焼き屋等にも出かけています。いずれも家族の協力を得ており、家族が欠席の場合は、他の家族の応援があるなど、支援体制が整っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方はお金を所持し、買い物などの際に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や本人の希望に合わせて支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に明るく、落ち着いた空間であるように心がけている。	ホームは閑静な住宅街にあります。2階ホーム玄関には、利用者の行事やレクリエーション、食事等の光景を写真に撮り、ファイルにしたものを設置しています。写真からは、利用者の笑顔が溢れており、居心地よい生活が送れている光景を見ることができます。ユニットのリビング中央には、中庭があり、明るい窓からは気持ちの良い風や光が入り、また家庭菜園の場となっています。季節の野菜、キュウリ、ナス、トマト、ゴーヤ等を収穫し、食卓にも上がっています。トイレは3カ所に設置し、清潔を保持しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームを談笑の場として活用している。落ち着かれないときには職員とお話できるようにカウンターを使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に好みの家具を配置していただくように説明し、日々の掃除の際に危険がないように配置に工夫している。	ベッド、洗面台、エアコンはホームで用意しています。入居時にはそれぞれの思い出の椅子、テーブル、位牌、テレビ、写真、置物等、自由に持ち込み、利用者が安心して生活ができるように支援しています。カーテンは入居時にカタログから自由に選べることができ、年に1～2回はホームで洗濯し、清潔を保持しています。家族会での勉強会を実施後、利用者の思い等に気づき、家族アルバムを置いたり、馴染みの家具を設置したりする等、家族の協力を得ながら、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身の回りのことが安全に続けられるように見守りを行いながら家事や趣味を継続してつづけられる環境づくりに努めている。		